

■堀先生の講話に関するご意見

- Q：道路整備の個人負担があるかどうか気になります。
 A：道路整備に関しては市が行うため、個人負担はありません。
- Q：後継者のいない店舗があり、道路整備に時間がかかると人がさらにいなくなり、店が閉まった状態が続くのも困ります。整備にはどれくらいの時間が必要でしょうか。
 A：整備内容にもよりますが、道路整備の場合には合意形成を図るまでが重要です。特に交通規制などを行う整備では、不便になるんじゃないかという理由で反対されることもあります。
- Q：笠間稲荷神社の脇にあるポケットパークの利活用をどう考えればいいでしょうか。
 A：作り方があまりよくないですが、構想は良いのでリニューアルすればいいものになると思います。
- Q：トイレの問題がお話にはありませんでしたが、どう考えればいいのでしょうか。
 A：なけなしの税金を使う公共施設整備においては、まちの魅力によりプラスになるものにしたいと考えています。トイレは必要なものですが、まちの魅力にはなりにくいです。維持管理されない公衆トイレは汚いし、臭いでしょう？ それよりも、店のおもてなし（ホスピタリティ）の一環として、店のトイレを使うことをおすすめします。店の売り上げでトイレの維持管理もできます。また、近隣地域におけるおもてなしのまちづくりの事例として、「真壁のひなまつり」での取り組みも参考にあります。
- Q：みなさんの意識の問題はどう解釈すればいいでしょうか。今、この意見交換会に来ている商店街の方は危機感を持っていると思いますが、現状に満足している人もいるのではないのでしょうか。
 A：始めから全員そろって賛成というまちはありません。店の人の意識が変わるのは自分が得しそうな時で、まちが変わらず、人も来ていない段階では意識は変わりません。しかし、まちづくりが進んで人でにぎわうようになれば、勝ち組に乗ろうとする人は必ず出てきますので、慌てることはありません。

■今後の進め方に関するご意見

- ・実際にこんなふうになるという絵を早く見せてもらって、道路整備を進めてほしいと思います。
- ・利用する地域住民の思いも重要なので、地元の意見を行政に伝えたいと思います。道路整備については、地域でも案を考えて提案させてもらいたいです。

第2回まちづくり「意見交換会」開催のご案内

～笠間稲荷門前通りの具体的な整備イメージをご提示します

第1回「意見交換会」でいただいたみなさまからのご意見をふまえ、笠間稲荷門前通りの具体的な整備イメージをご紹介します。みなさんのご参加をお待ちしております。

- ・日 時
2月25日（木曜日）
午後6時30分から
- ・場 所
笠間稲荷神社（稲光閣）



「笠間稲荷門前通り」まちづくりニュース

- 笠間市の観光核である「笠間稲荷神社周辺地域」は“来街者をおもてなしする雰囲気づくり”を進めています。
- 「笠間稲荷門前通り」まちづくりニュース（創刊号）（昨年11月発行）では、これまでの主に商店街のみなさんとの勉強会における堀 繁 先生のお話のポイントをお届けしました。また、昨年12月にはみなさんのご参加をいただき“まちづくり「意見交換会」”を開催しました。
- このまちづくり「意見交換会」でいただいたご意見などを踏まえ、より具体的なまちづくりの検討を行って参ります。
- 「笠間稲荷門前通り」のまちづくりにつきましては、今後もみなさんから多くのご意見をいただきたいのでニュースレターなどにより情報をお届けいたします。よろしくお願いいたします。

特集

まちづくり「意見交換会」を開催しました！

堀 繁 先生(東京大学教授)を講師にお迎えし、笠間稲荷門前通り周辺にお住まいのみなさんとまちづくり意見交換会を昨年12月17日に開催しました。今回のまちづくりニュースでは、先生のお話のポイントと意見交換の概要をご紹介します。



まちづくり「意見交換会」の開催にあたって

- ・年間300万人以上が訪れる観光地である笠間市の観光交流の拠点である笠間稲荷神社周辺ですが、観光客が「何度でも訪れたい。ゆっくりとまち・みせを見てみたい。」、そんな思いが感じられ、回遊できる仕組みづくりが重要です。
- ・まちづくりの基盤として、笠間稲荷門前通りの道路整備は必要不可欠であり、道路整備の基本的な考え方として、現状の道路幅員の中で歩行者を優先したみちづくりのためには、交通規制は避けて通れないと考えます。
- ・将来的には、門前通りが地域の方に愛されるとともに、訪れる観光客にとっても居心地の良いみちづくりをしたいと思えます。



堀 繁 先生

(東京大学アジア生物資源環境研究センター教授)
 ■専 門：景観デザイン、景観工学、計画設計思想史、地域計画
 ■主な経歴：

環境庁自然保護局主査、東京大学農学部助手、東京工業大学社会工学科助教授などを経て、平成8年3月より現職。

国土審議会、歴史的風土審議会の各専門委員の他、建設省「道路環境計画」、農水省「日本の美しい村景観コンテスト」、水産庁「美しい漁村づくり」、環境庁「日本の音風景100選」、国土庁「地方振興方策のあり方に関する検討」、日本道路公団「高速道路景観整備実践マニュアル」など、国、公団、地方公共団体等の各委員会座長・委員等を歴任。

「住んでみたくなるまち」ってどんなところ？

世の中にはいろんなまちがあり、みんなが住んでみたいと思うまちもあれば、だれもそう思わないまちもあります。

まちの良い・悪いはどこで判断しているの？

もてなしの表現がたくさん道に入っていて、ひとを大事にしてくれているかどうか

- ・まちは二つのもの、道と沿道の建物でできています。
- ・ひとは、自分に近いものをより評価します。まちを評価する際に大半を占める部分は、自分が通る道です。
- ・ひとは自分が一番大事だと思っているため、もてなしの表現（ベンチや花など）が道にたくさん入っていると良いまちだと感じますが、車を優先している道を見ると、このまちは嫌だと思ってしまう。



ひとを大事にするもてなしの表現が多い道路

「もてなしの表現」の具体例

- ・ベンチは「どうぞお休みください」というメッセージを発する重要なホスピタリティ（もてなし）表現です。
- ・車をまったく通さないのは賢くありません。便利な道具である車を使わないまちには賛成しませんが、道具である車が我がもの顔でまちを占領しているところにも住みたいとは思いません。歩いてみたい道には、歩道が広く、居心地の良いベンチがあることが必要です。



ベンチの足下と歩道の舗装が変わっているため、自分の居場所が確保されていると感じられます



店舗の前にベンチが置いてあると、楽しく休みながら買物ができます

- ・楽しいまちには、ヨーロッパの広場のような滞留拠点（休憩所）も必要です。ベンチは腰を下ろすだけですが、大勢の人が飲食しながら一度にくつろげる滞留拠点は、魅力あるまちづくりのための重要な要素です。



観光客が休めるように整備された公共施設ですが、あまり人気がありません。塀があると入りにくく、舗装も車のためのものに感じられます。



塀の一部だけを残して撤去し、足湯とギャラリーが一体となったカフェを作りました。若い女性が多く、とてもにぎわっています。

「ひとよりも車を大事にする道」から

「ひとを大事にし、楽しく歩ける道」へ！

そのためには・・・

- ・ひとが楽しく歩ける道にするには、歩道を広くする必要があります
- ・現在の道路幅のなかで歩道を広くするには、車道を狭くするしか方法はありません

⇒交通規制を導入することが必要です！

そこで…

『笠間稲荷門前通り社会実験』を行います！

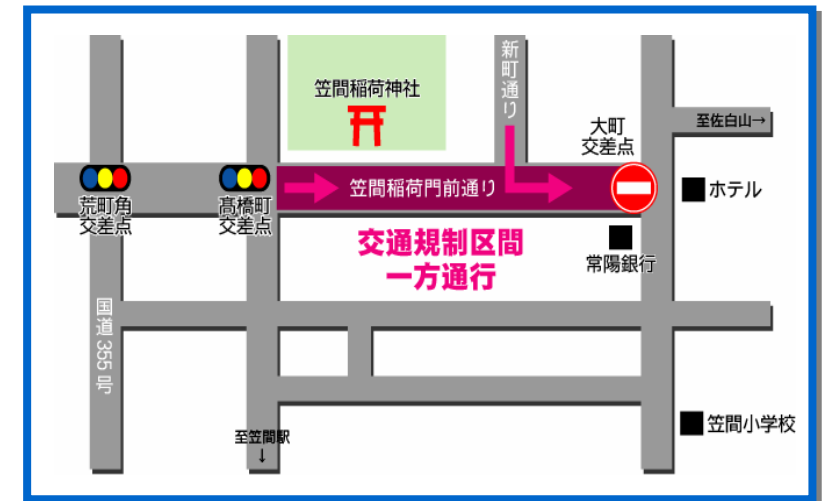
◆交通規制の内容

実施期間：3月25日（木）～
3月29日（月）

規制時間：午前9時～午後5時

規制内容：高橋町交差点から佐白山
方面への一方通行

- ・笠間稲荷門前通りにて（約300m）歩くところを広くして、楽しく歩ける道を作るための「一方通行」での実験です。



同時開催 デッド・ストック門前市 ～復活！笠間びっくり市～ 3月27日(土), 28日(日) 笠間稲荷門前通り

クラフト作家&商店のコラボによるクラフトフェア

・・・個性で楽しいお店やオープンcafé・・・

昭和の時代に、年に1回だったのか良く覚えてはいないが、高橋町商店街で「びっくり市」なる名称で、お客様に商品を安く提供するサービスが行われていた。駐車場にはたくさんのテントが並び、ワゴンにと狭く商品が並べられていた。子供ながらにそのびっくり市は、とても楽しみのひとつで、子供向けのおもちゃ等も少しではあるが、並んでいたのを思い出す。その「びっくり市」が、この度形を変えて復活する。現代版の「びっくり市」。乞うご期待！

